

[P-1-067~P-1-077] ポスター：水処理・洗浄 8

2014 年 6 月 13 日 (金) 10:30-11:45 ポスター会場 1 (神戸国際展示場 1 号館 2 階)

座長) 荒川 昌洋:1、座長) 早栗 徹:2

1:紀陽会田仲北野田病院、2:まつしまクリニック

P-1-070

無臭性カプラー洗浄剤「カプクリーナーMH」の使用経験

【演者】城殿 務文:1

【著者】城殿 務文:1、神谷 和志:1、山本 さや香:1、筒井 優香:1、菅沼 辰登:1

1:(医) 生寿会 岡崎北クリニック 臨床工学部

【目的】透析液清浄化において、カプラーを清潔に保つ必要がある。今回、エー・エヌ・テック社製「カプクリーナーMH」を使用する機会を得たので、その効果を検討した。

【方法】本剤の推奨希釈倍率が 10 倍から 100 倍であるため、10 倍、30 倍、50 倍、70 倍、100 倍にて各溶液を作成し、炭酸カルシウムの溶解量、洗浄前後のカプラー表面の生菌数、Oリング周りの ATP を測定する。また、カプラーを分解し、各部品を各溶液に 4 週間に渡り浸漬し、部品の劣化の有無を確認する。

【結果】炭酸カルシウムの溶解量は希釈倍率が低いほど溶解量は増大した。生菌数はどの希釈倍率でも、洗浄後は検出されなかった。ATP は洗浄後減少したが希釈倍率とは相関が見られなかった。カプラーの部品の劣化はどの希釈倍率においても見られなかった。

【考察】日々の供給装置での薬液洗浄と組み合わせることで、カプクリーナーMHはカプラー洗浄において有効である。

